

社会福祉法人あかねの会
2025年9月20日吉田由紀子講演会(練馬区教育委員会委託子育て学習講座)
地域社会の中で生きていくためには、何を育てておかなければならないか？
～他者のことを考える心を育てる～

会場で沢山の質問をいただきましたが、全部にお答えできなかったため、紙面で回答させていただきました。ご参考になれば幸いです。

●健康について

Q：障害のある人は老化が早いとの事でしたが、身体ではなく知的のみの障害もその傾向があるのでしょうか。

A：知的のみの障害も、健常の人の10才～20才早く老化すると考える様、医療関係者に言われています。個人差は大きい。ダウン症も50年前には20才が寿命と言われましたが50才以上まで元気になっている人が何人もいます。ただ、食べ放題、肥満の場合はいろいろな疾患で早死にいたる例も多いです。

●こだわりについて

Q1：こだわりが強い場合の親の受け流し方。切り替え方のアドバイスをお願いします。

Q2：非定型自閉症、軽度発達障害、日常はほぼ自立しているが「こだわり」が強い。コミュニケーション障害あり。就職したが、特徴を理解されず、苦しみました。特に嫌な言い方をされると、ずっと気にしてしまい集中できない。周囲と独立してしまいがち。

A1～2：「こだわり」に流されないで、当初は本人のペースに乗ってあげ、少しずつこだわりのバージョンを広げていってあげることです。

例：〇〇型の電車に乗りたい → 今日は急ぐから、今度の〇月〇日にしよう」とか、出かけるための準備の手順を買える → それでも大丈夫だった。

Q：強度行動障害を発しない為に、小さい時から気をつけた方が良い事はある
か？

A：「相手に合わせる力」「自分のやったことで誰かが喜んでくれたという体験をた
くさんもつこと」「自分のできること、得意なこと」を増やすことです。

Q：強度行動障害のある方の生活は行動の幅がせまくなってしまいますか？また息子
さんの対応がとても良いとおっしゃっていたので、事前対策なのか、行動が出た後な
のか、参考にさせていただきたいです。

A：行動をよく観察して、次の行動を予測して対応する～このことに尽きます。その
ためには、その相手の人が好きなもの、どういう行動をとることが多いか等をよく知
っておくことが大切（実態把握）だと思います。

●就労について

Q：2. 7%制度はあっても、職場理解不足と思う。社会への定着はどうなっていま
すか？

A：定着は会社でも20～30年勤続し、定年まで働いている人が増えています。

●グループホームについて

Q：親の死後、どこに住むのかが心配です。「グループホーム」「入所施設」をどう見
つけるか、よくわかりません。

A:福祉事務所の福祉のしおりなどに練馬区内のグループホームのリストがあります。
相談支援事業所に依頼して探してもらうこともできますし、運営している法人に直接
問い合わせることもできます。グループホームや入所施設はいつ空くかわからないの
で、あらかじめ相談しておくとい良いでしょう。入所施設は今後新しいものはつくられ
ない方向です。

Q：グループホームについて、企業／就労継続支援B型と障害年金、どれくらいの予算ですか？

A：給与と障害者年金 → グループホームの生活は充分です。貯金がある人も多いです。

就労継続支援B型と障害年金 → グループホームの生活はほぼOKです。厳しくなった場合は「生活保護」を受け、グループホームでの生活をすることも可能です。

●お金の管理

Q1：グループホーム入居者が高齢で、ご兄弟等いらっしゃらない場合、お金の管理はどのようにしたらいいのでしょうか？

Q2：成年後見人制度を利用した人の話を聞きたい（どうやって決めたのか）など。将来に向けて必要な制度か取り組みは何かを聞きたい。

Q3：成人年齢が20才から18才に引き下げられ、知的障害のある子どもは逆に22才に引き上げて欲しいと考えています。かといって、成年後継人を立てるにも、いつが適切なのか、誰が良いのか、外部の人だと経済的負担も心配です。アドバイスを頂けますでしょうか？

Q4：お金は「どこ」「どんな制度？組織？」託せばよいですか？

A1～4:成年後見人制度があります。1000万円以下あれば、福祉協議会で預かってくれます。制度については福祉事務所、相談支援事務所に個々の実態に応じたアドバイスを受けてください。

Q：病気の発見のお話・・・今まさに悩んでいるのでありがたかったです。自分の体調不良をどう表出できるようにしていけばよいか、今からできる策がありましたら、ご教示長います。

A：自分でできなくても、身近な親ができる（普通の状態）様にしていくこと。徐々に関係性のついている大人に移行していくことを機会ある毎に試してみること。親はずっと側にいられないので、他人に託すことを試みるという気持ちを必ずもって

試していくこと。

●兄弟について

Q：兄弟がいる場合、その兄弟にはしっかり当人の障害について説明しておいたり、必要に応じて助けてあげるように伝えるべきなのか（どうしても兄弟に負担をかけたくないと思ってしまう）。

A：兄弟にはできるだけ説明（障害のこと、制度のこと、将来のこと）しておくことは大事～実際には兄弟がより沿って見てくれる家族は9割方いません。専門の機関に預けていくことになると考えておかれたほうがよいです。

●恋愛、結婚等について

Q：知的障害の方々の、心理成長、特に恋愛・結婚・出産・子育てにまつわるエピソード、支援の考え方を教えてください。

A：結婚側は何例もフォローしましたが、難しい例が多いです。お互い、相手のペースに合わせられず離婚した、子どもを育てられず養護施設へ預けたなどの例があります。

●将来について

Q：3才で知的を含む自閉症と診断され、小学校、中学校、支援学校をすすめられましたが、支援学級に通うことができ、かなり伸びました（衣食のことは全て自分でできます）。高校は職能開発科にチャレンジしましたが不合格、支援学校に入学。その頃から、初めて自分に障害がある、自分は障害者だということに気付き、ショックだった様子。姉が観る韓国アイドルが好きで、自分は障害者として生きていきたくない。自分もアイドルになりたいと話すようになりました。どのように接していけばよいのか悩みます。

A：アイドル～自分の得手は何か？自分の売りは何か？じっくり探求させることも大事ではないでしょうか？苦手なことも自覚していく過程で、自分が何をして生きていけ

るか？を探る過程に親は寄り添い、見守ることが大事だと思います。

Q：現在住んでいる家は、最終的には処分するよう助言されていますが、タイミングがよくわかりません。

A：親が暮らしているうちは必要です。処分したほうがよいと言われたのですが？処分というか、親が亡くなった後、どうするかなど決めておくことは大事です。例として、親が亡くなられた後、グループホームして、ご自分お子さんが入られている方もいます。本人にとって住み慣れた場所暮らせるというメリットはあります。

以上

社会福祉法人あかねの会

〒179-0074 東京都練馬区春日町 1-18-36 われもこうビル
電話 03-3577-7421（代表）

www.akanenokai.com